

令和4年2月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

## 令和4年2月定例教育委員会会議録

### 1 開催日時、会場

令和4年2月21日（月） 9時30分～12時05分  
千手中央コミュニティセンター 会議室

### 2 出席

渡辺正範教育長、庭野三省委員、浅田公子委員、廣田公男委員、渡邊奈々子委員

### 3 説明のため出席した者

子育て教育部長（渡辺正彦）、文化スポーツ部長（金澤克夫）、教育総務課長（富井陽介）、学校教育課長（佐藤研一郎）、指導管理主事（細木久成）、生涯学習課長（樋口具範）、文化財課長（石原正敏）、文化財課副参事（相崎文幸）、文化財課文化財保護係長（高橋由美子）、スポーツ振興課長（庭野日出貴）、情報館長（笠原実）

### 4 会議の内容

#### （1）会議録署名委員の指名

署名委員：浅田委員、廣田委員

#### （2）報告事項

##### ① 共催・後援等報告

渡辺教育長

- ・事務局の説明を求めた。

各担当課長

- ・資料に基づき説明

（特に意見なく了承した）

##### ② 報告第1号 十日町市文化財保存活用地域計画策定事業について

渡辺教育長

- ・事務局の説明を求めた。

石原文化財課長

- ・資料に基づき説明

庭野委員

- ・この計画と日本遺産はどのような関係になるか。

高橋文化財保護係長

- ・本市には二つの日本遺産があるが、この計画はそうしたものも取り込みながら俯瞰的につくっていくアクションプランということになる。この計画と二つの日本遺産を絡めながら、連携してさらに基盤を広げ、ほかの文化財との関連を持ちつつ、様々な活用を想定して、これから策定協議会で具体的な案を、いろいろな意見を出してもらい

たいと考えている。決してどちらが優先とかではなく、連携しながら、より効果的に進めていきたいと思っている。

庭野委員

・それに関連して、「つなぐ棚田遺産」の選定発表があり、十日町は県内で一番多くの棚田が選定された。これとうまく結びつけることはできないか。

高橋文化財保護係長

・棚田も人の営為が生み出してきた、自然と人が調和して働きかけながらつくってきた歴史的景観の一つだと思っている。そのほかにも、例えば桔梗原だとか開墾していきながら人間が農業という形で自然と関わってきたものなので、その歴史的景観を当然計画の中に位置づけて、一つの文化財のコンテンツとして発信して、ほかの文化財と関連しながら入れ込んでいけるものと思う。

渡辺教育長

・日本遺産にしても、棚田遺産にしても、この文化財保存活用地域計画の中ではしっかりと位置づけて進めていくようお願いしたい。

(以上の質疑のあと了承した)

### (3) 議決事項

- ① 議案第1号 令和4年市議会第1回定例会提出令和3年度補正予算案の承認について

渡辺教育長

・議案第1号を上程し、事務局の説明を求めた。

各担当課長

・資料に基づき説明

廣田委員

・地域コーディネーターの報償費について、活動日数はどのように把握しているかお聞きしたい。

佐藤学校教育課長

・毎月どれくらい活動したか学校から報告させており、それによって把握している。

廣田委員

・私も前に地域コーディネーターを1回やっていたことがある。最初の年はちょっとやり方が分からず、自分の空いた時間になったときにアポなしで回ったりすることがあったが、なかなか御用がなかった。2年目から週に2回定期的に行くことにしたが、ただ行っても仕事はなく、用事なくともとにかく顔だけ出していたときがあった。そういうのも活動日数に含まれるのかどうかというのは、私は日誌を出していたわけじゃないので、多分担当の教頭先生が私の行った回数を記録していたものと思うが、そういったことは担当の先生の捉え方によっても違ってくると思う。学校によって差が出ると思うが、何か基準みたいなものはあるか。

佐藤学校教育課長

・日数の基準というのは特にはない。今おっしゃったように何げなくおいでいただいて、自分でふらっと来ただけだからと言って、それは日数につけなくていいとおっしゃるコーディネーターがいるとお聞きしているので、当然その差がやはり出てきているのかなと思っている。当然コーディネーターに対する研修だけでなく、学校に対する指導も含め、活用の仕方をしっかり示していきたいと思う。

廣田委員

・新潟市のほうは10年以上前からやっているが、その学校のコーディネーターの方に聞いたら、もう机があるのはもちろんだが、朝から晩まで出勤して、職員会議にも出席しているという。とにかく仕事があるから行くのではなく、行くから仕事が見つかるという面もあると思うので、用事がなくても行くということをカウントできるようにしてもらったほうがいいと思う。

佐藤学校教育課長

・それは今後の課題ということで、学校と地域をつなぐ大事な地域コーディネーターなので、やはり地域の中においてのそのコーディネーターの役割が大事になる、つなげられるというような形にしていきたいと考えている。

渡邊委員

・廣田委員にお聞きしたいが、コーディネーターの方の具体的な何か活動内容を知りたい。

廣田委員

・地域の人を講師として学校に呼び、学校が招くわけだが、そのときに学校の先生は必ずしも地域のことがよく分かっておらず、例えばこのことを知っている人がどこか地域にいませんかとか相談を受けて、コーディネーターが自分の知識の範囲内で、あるいは知っている人に、そういう人がいるかどうか公民館に聞いたり、知っている人に聞いたりして探して学校に紹介するというような役割が多い。

渡辺教育長

・地域と学校をつないでいく、例えば農業、農家でも田んぼのこと詳しい人がいる、畑に詳しい人、木の扱い詳しい人もいれば、そういったことで例えば授業で使いたいとか、それ関わりたいというときに、コーディネーターがこういう人いるよと、こういうところに行くところというのが見られるよとか、そういった情報を提供していただいたり、また自身でもそういったことをきくと学校のほうに教えたりしている。

廣田委員

・またあと、例えば今日は何時間目の何学年の授業に何人ぐらい来るからという、その辺も含め予定があるわけだが、そうするとあらかじめそのコーディネーターが行って、その授業の準備をやったり、コーディネーターがその来た人にお茶を出したり、終わってから一緒に反省会などをやったり、それをまた先生につないだりとか、そういった実際の現場での橋渡しというか、サポートみたいなものを行っている。

廣田委員

・17ページの「成人のお祝い」だが、これは成人式とは別なのか。ただ、説明の中

で今年最後の成人式というのが気になった。最後というのはどういう意味か。

金澤文化スポーツ部長

・まだ検討中の部分もあるが、全国でもそれは問題になっていまして、18歳の成人というのと、二十歳で今までやっていたものの名称が、ほとんどが「二十歳の集い」という名前で、18歳での成人式ではなく、18歳は当然法的には成人になりますが、式典は別にしようというのが一般的なようです。今回の補正予算については、令和4年4月から法的に成人になる方については、成人式は行わずにメッセージ記念品を贈るための、そのスタートの部分ちょっと予算間に合いませんので、この3月補正をさせていただいて、その後については令和4年度当初予算で補完をしていく。

・これまで、20歳成人の方を対象にした成人式を5月3日にしてきたわけだが、そういったものは今回が最後である。それ以降については、例えば「二十歳の集い」など、「成人式」じゃない言葉を使って皆さんを祝福しようと考えている。これについては、また今後の令和5年度の予算になるということである。

渡辺教育長

・成人式という名称の式典の催しが最後になるということで、成人者をお祝いする会が一切なくなるという意味ではない。

廣田委員

・質問の意味は、5月3日にきものまつりと一緒にやることによって、着物を着る人が男女とも増えて、それが地場産業の振興にもつながっていたと思っているので、質問した。

金澤文化スポーツ部長

・今年の5月3日は予定どおり成人式をきものまつりと併せて行う。令和5年以降についても、配慮した中で引き続き着物を着る機会を増やすような場を考えていきたいと思う。

(以上の質疑のあと決定した)

② 議案第2号 令和4年市議会第1回定例会提出令和4年度当初予算案の承認について

渡辺教育長

・議案第2号を上程し、事務局の説明を求めた。

各担当課長

・資料に基づき説明

廣田委員

・27ページ、教育総務課の奨学金だが、令和3年度の補正では、当初予定したよりも少なかったのが減らしたという説明があった。今回もその反省を踏まえて減額になっているが、これは何が違ったのか。当初予算を立てる段階で今度の卒業生の数とかも把握しているわけだし、制度的にPRが足りなかったのか。次のページの奨学金返還支援は、これも政策としてはいい政策だと思っているが、これがあまり理解されなかったのか、それともまだこの返還の支援の程度が低くて、この支援の程度が低い

と、これはあまり学生に魅力がなくなってしまうようなことも考えられる。一体何が考えられるのか。

富井教育総務課長

・まず、奨学金の貸付けたが、例年5,000万円前後の当初予算案で編成をしていた。令和3年度の当初予算について、コロナ禍で非常に家計が厳しいということ、奨学金の需要が大きくなるだろうという見込みで1,000万ほど増額したが、例年と変わるところがなく例年並みに戻したというのが実態になる。

渡辺教育長

・コロナ禍により、リモートを活用して家庭で授業を受けて、アパートなどに入る方が少なく、実際に経費がかかっていなかったという話もあった。それが本当かどうか分からないが、こちらは家庭困窮が増えるだろうと思っていたところ、リモート授業などで実際に経費がかからないで済むということがあったと考えている。

富井教育総務課長

・それと、Uターン奨学金返還支援のPRですが、市報で2回PRをしており、あと今親元を離れてアパートで生活している学生さんについて、ふるさと便というものを十日町市お送りしているわけだが、そこにも折り込みを入れ周知に努めている。商工会議所にも周知が図られていて、申請者の方にどうやって知ったか確認すると、勤め先の社長から紹介してもらったとか、そういう声も散見されるので、利用者の皆様にはある程度周知が図られたと考えている。ただ、これは常にPRしていかないと利用は図られないので、今後も機会を捉えて、PRしていきたいと考えている。

廣田委員

・やはり個人のところに直接届くPRというのは大事だと思う。ただ、卒業生全員に手紙をやっても、進学しない人もいるし、かといって進学する人を把握するというのは非常に難しいので、例えば高校から個人の情報を提供してもらうとか、個人に直接このような情報が届くようにしたほうがいいのではないかと。

富井教育総務課長

・おっしゃるとおり、将来帰ってくるとこういうことがあるということをも早めに知らせることはいいことだと思うので、今後高校などにそういったところに周知をしていきたいと思う。

庭野委員

・34ページの13番の大地の芸術祭絡みだが、移動バスの使用料計上について、学校によって規模違うが、対象は特定の学年にするのか。

佐藤学校教育課長

・1学校あたり幾らという形で予算を計上した。内容については予算の範囲内で学校にお任せすることになる。

庭野委員

・それからもう一つ、以前、大地の芸術祭に夢中になり、夏休みにほぼ全部回って、どの作品から回ったらいいか自分なりにプランを組んで提案したことがあった。学校の児童生徒が見るに望ましいコースのプランというものを、非常勤指導主事などから

ツアー例として提案してもらおうと良いのではないかと。

佐藤学校教育課長

・それも含めて検討していければなと思っている。学校ごとにぜひこれはというものが出てくると思うので、それも含めてプランの中に入れて提案できれば考えている。あと、今回は学校の授業日にも大地の芸術祭を開催しているので、その辺少し柔軟的に対応できるのではないかと考えている。

廣田委員

・38ページ22番の副読本のことだが、日本遺産の認定に伴って、学校の子供たちに日本遺産のことをきちんと教育するということが大事だと思う。今回、副読本の軽微な修正ということだが、大幅に改訂する必要があるかと思うが、その辺の見解はいかがか。

佐藤学校教育課長

・この小学校3、4年生の社会科副読本というのは、もともと小学校3年生、4年生の社会科の教材の中身は非常に地域を取り上げた学習であるにもかかわらず、教科書というのが本当に一般的な全国区の教科書である。例えばごみ焼却場一つ取っても、千葉県の焼却場を紹介してあるというような教科書なので、それだと全く地域についての理解深まらないということで、その教科書を補填する意味の社会科副読本ということになる。学習指導要領が4年ごとに改訂されが、その改訂ごとに大幅に改訂していくというのが基本的な流れとなる。今回は改訂して2年が経ち、実はその際に2年分の副読本しか作っていない。その2年の間で恐らく数字のようなところが変わるので、細かい微調整をして今回の残り2年分の改訂ということで、予算の中身としては製本印刷代が主なものになる。日本遺産についてはふるさと教材も含めて考えていきたいと思うし、もしその中で入れるよう間に合うようであれば、マニュアルに入れていくという形になる。

・これと別に33ページの12番にふるさと教材作成事業があり、令和5年4月が今回の改訂版になるので、当然こちらのほうには日本遺産は上げていくという形になる。

渡辺教育長

・ふるさと教材についてはしっかりと、日本遺産に認定されたということを反映したものにすることは準備している。学校の副読本につきましては、学習指導要領というがあるので、その中で可能な範囲で対応していく。

庭野委員

・37ページの下段の「あったかい学級づくり」だが、事業の概要の最後の段に学識経験者とアドバイザー契約をとあるが、具体的にはもう決まっているのか。

佐藤学校教育課長

・現在交渉中である。

渡邊委員

・P32の教育支援員設置事業の中で大幅に多くなったことについてご回答いただきたいが、学校から希望人数は何名だったのか。

佐藤学校教育課長

・学校からの希望は全て合わせて80名である。希望80名のところ50名分の予算計上である。

廣田委員

・37ページの19番の非常勤指導主事だが、事業概要の説明のところに「毎年増加する」という形容詞がついているが、これは若手教員が毎年増加するということだと思うが、欠員補充講師のところにもこの毎年増加するというのはかかっているのか。そもそも、毎年若手教員が増加するというのは、どういうことなのか。教員というのは全体的には減っていると思う。児童生徒の数が減っているので教員は減ると思うが、退職者が毎年増えているということなのか。

佐藤学校教育課長

・ここ数年の推移で定年退職を迎える教職員・教員が大勢いて、新採用がその分採用されるということである。それが数年続くと1校目の新採用だけでなく2校目の若手もどうしても増えてしまうという状況がしばらく続く。また、欠員補充講師も増えている。欠員というのがちょっと微妙な言い方で分かりづらいところがあるが、例えば学級減になりそうなぎりぎりのクラスが今増えている。本当は2クラスにできる学級が、児童1人がいないがために、2クラスは県として認めましょう、でもその担任は5月1日で決まるので、正採用をやることは困難であり、そのために講師を欠員講師として割り当てている。このような学級減ぎりぎりのところが十日町では増えており、四苦八苦しているところである。

(以上の質疑のあと決定した)

③ 議案第4号 十日町市里創プラン松之山ステージ越後松之山「森の学校」キョロコ条例の一部を改正する条例案の承認について

※議案第3号は人事案件のため議案の最後とし、先に議案第4号以下を議題とした。

渡辺教育長

・議案第4号を上程し、事務局の説明を求めた。

樋口生涯学習課長

・資料に基づき説明

廣田委員

・60ページの新旧対照表の第3条第2項の(3)だが、「キョロコ友の会会員に係る割引」の名称が変わったが、割引という言葉は残ってる。今までは、友の会会員1年券があって、これが多分割引ということだと思うが、今度はこれが削除になっており、何が割引になるのか明確ではないと思う。

金澤文化スポーツ部長

・これまでの「キョロコ友の会」というのは、行政側の入館券の1種類というのを友の会という扱いが強かった。通常1回券ということで収入するが、友の会は1年分の入館券という形で、1年入館券を発行していた。それに加え、友の会会員へ情報発信等も行政からしていた。それをこのたび、今年の7月に20年目に突入するという機に民間主導で友の会をつくろうという動きがあり、現在の市の友の会は廃止をするこ



ととなった。民間主導のキョロロ友の会の会員についても引き続き割引ができるよう規定を残したものである。

・民間主導のキョロロ友の会会員の入館料は引き続き優遇していき、サービスのには大きな変化はなく、制度を現状に見直したという形でご理解いただきたい。

(以上の質疑のあと決定した)

④ 議案第5号 十日町市文化財保存活用地域計画策定協議会設置要綱の制定について

渡辺教育長

・議案第5号を上程し、事務局の説明を求めた。

石原文化財課長

・資料に基づき説明

(特に質疑なく決定した)

⑤ 議案第6号 十日町市立学校教員住宅管理使用規程の一部を改正する訓令制定について

渡辺教育長

・議案第6号を上程し、事務局の説明を求めた。

富井教育総務課長

・資料に基づき説明

浅田委員

・雪里留学について、令和4年度から実施予定ということだが、留学生の応募はあったか。

渡辺子育て教育部長

・雪里留学の業務自体は、ミッション型地域おこし協力隊の久保田さんと松之山支所の地域振興課が中心に行っている。久保田さんのほうに問合せは数件来ている。来年度、留学生の宿舎となる藤倉荘の改修を予定しており、また、この改正により教員住宅のほうも受入れ態勢が整う。実際に藤倉荘の改修が終わるのが9月、受入れは10月からと考えているので、それまでには今問合せが来ている数件も含めてPRをしていくという形になるかと思う。

(以上の質疑のあと決定した)

⑥ 議案第3号 令和3年度末令和4年度初学校管理職人事異動に関する承認について

渡辺教育長

・議案第3号を上程し、事務局の説明を求めた。

佐藤学校教育課長

・資料に基づき説明

(特に質疑なく決定した)

5 その他

- ① 学区適正化の進め方等について
  - ・資料に基づき説明
- ② 3月の主な行事予定について
  - ・資料に基づき説明
- ③ 次回の教育委員会の開催日時
  - ・3月臨時会 3月11日(金) 9時30分から開催することを確認した。
  - ・3月定例会 3月25日(月) 13時30分から開催することを決定した。

以上で、12時05分に渡辺教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記